

くまざさ



人気アニメ「ルパン三世」

の作者である漫画家・モンキーパンチ氏の出身地として知られる浜中町。現在では、町を挙げて「ルパン三世」による地域おこしにも取り組んでいます。この町の基幹産業である酪農業の発展を、農協のトップという立場で長年牽引し続けてきたのが、3代目組合長の石橋榮紀(しげのり)さん(湖陵11期)です。

国道44号沿いなど、町内すべての牧場の看板を、それぞれ異なるキャラクターで描いているのも、もちろんモンキ

3代続けて下宿暮らし!? 浜中町の石橋さん

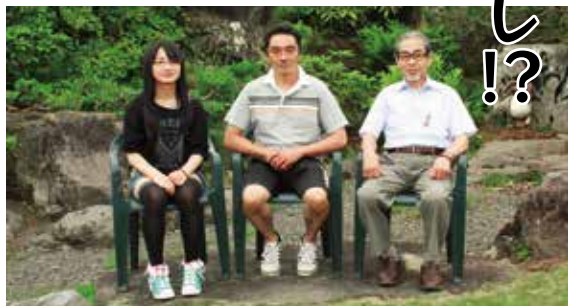
パンチ氏の手によるもの。そんな浜中町で生産された牛乳は「乳質日本一」との折り紙が付けられ、有名な「ハーゲンダッツ」のアイスクリームや、「カルピス」の贈答用高級製品の原料として使用されています。

自ら酪農家の3代目として根室市に生まれた榮紀さんは、1956(昭和31)年

の入学と、2年前に全焼した校舎が再建された直後の新生入生でした。当時は高校の学区が小学区だったため、湖陵高への進学を希望した榮紀さんは、中学生のうちに釧路の親類を頼って学区内にあった春採中へ転校、湖陵入学後は浦見町にあった下宿から通学したといいます。「父親は酪農業を継げとは言いませんでしたが、本当は弁護士になりましたが、本当は弁護士になりたかったけれど、理系に進め」と榮紀さん。千葉工業大学で管理工学を専攻したこと

が、乳質の品質管理など、現在の農協運営に役立つているのかもと、静かに笑います。

結局、父君の仕事を手伝うために帰郷し、100ヘクタール以上にも及ぶ



広大な牧場を切り盛りすると同時に、地域ぐるみで乳牛と飼料・土壌の管理に取り組み、その手腕が買われて専務理事に推されたのは30年ほど前、まだ自身が40代の青年酪農家でした。

現在、組合長として多忙な榮紀さんに代わり、4代目として近代的な牧場を管理・運営するのは長男の慶健(のりたけ)さん(湖陵37期)です。かつて全道最強とうたわれた湖陵男子ハンドボール部の主力選手として幾度も全国大会へ出場、自身も体育教師を目指して中京大の体育学部へ進みました。「結局、母親が体調を崩したことから卒業してすぐに家へ戻り、父と同じく酪農家になってしまいました」と苦笑する慶健さん。長く握り慣れたボールのトラクターのハンドルに持ち替えて、もう四半世紀が過ぎようとしています。

「2歳上の姉(幹子さん(湖陵35期))も湖陵生でしたので、下宿ではなく2人で小さな一軒家を借り、自炊生活をしていました」と湖陵時代を懐かしむのは、自宅

が友人たちの絶好の「たまり場」であったことにもよるようです。すべての学年が10クラス、全校で30クラスあったという、湖陵史上最も生徒数の多かった時代のことですから、さぞかし賑やかだったことでしょうが、「結局、姉が卒業すると普通の下宿に移ったので、そう長くは続きませんでした」ということです。

そんな「酪農界のリーダー」である榮紀さん、慶健さん父子の背中を見ながら育ったのが、慶健さんの長女である杏葉(あんな)さん(湖陵67期)現1年生)でした。「今年の4月に入学したばかりなので、まだそんなに湖陵生としての実感はありませんが、つい先日初めての湖陵祭で行灯をかつぎ、グラウンドで火文字や花火を見て興奮しました。行灯行列で北大通を歩けるのも、やっぱり湖陵だけなんです」と、確実に湖陵魂が受け継がれているようです。「英語が好きなので、そういう進路なんかを考えています」と教えてくれましたが、アメリカの大学にでも進んで、本場の大規模農場の経営ノウハウを学んでくるというのはどうでしょう。男兄弟はいないということでしたが、案外、20年後には青い目の5代目牧場主が「石橋牧場」を切り盛りしているかも知れませんよ。西村貞広(湖陵30期)

が友人たちの絶好の「たまり場」であったことにもよるようです。すべての学年が10クラス、全校で30クラスあったという、湖陵史上最も生徒数の多かった時代のことですから、さぞかし賑やかだったことでしょうが、「結局、姉が卒業すると普通の下宿に移ったので、そう長くは続きませんでした」ということです。

記念ブロンズ像中庭に.....	2頁	大型スクリーン寄贈.....	4頁
故野尻氏の墨書寄贈.....	2頁	各地域の湖陵会.....	5, 6頁
記念講演会.....	3頁	釧路市職員湖陵会.....	6頁
提灯持って行灯行列.....	3頁	学園だより.....	7頁
記念シンボルマーク.....	4頁	総会当番期、訃報、編集後記.....	8頁

目次



湖陵100年
定時制90年



記念事業着々と

北海道立釧路湖陵高校の創立100年、定時制90年を迎え、9月29日に記念式典などを行います。それを前に記念実行委員会(葭本正美実行委員長・湖陵24期)は、さまざまな記念事業を行いました。星 匠(湖陵30期)

「コタンコロカムイ」を囲んで参加者のみなさん

中庭にコタンコロカムイ

米坂氏作のブロンズ像

6月9日、同校で米坂ヒデノリ氏作のブロンズ像除幕式が行われ、米坂氏や卒業生、生徒など約50人が参加しました。実行委員会が、彫刻家で併置中学校を1949(昭和24)年に卒業し、元同校の教員でした米坂ヒデノリ氏にフクロウの像「コタンコロカムイ」制作を依頼していました。中庭で行われた除幕式で、田川芳

紀校長は「この像に見守られながら伝統にふさわしい学校づくりをしたい」、また、生徒を代表して生徒会長の大森麻子さん(3年)は「将来、世界に羽ばたけるよう、いっそう勉強や学校活動に励みます」と感謝していました。コタンコロカムイは、シマフクロウのアイヌ語で、「村の神」という意味です。



(写真は工藤写真館提供)

生徒たちをみつめる「コタンコロカムイ」



石原氏(左)が田川校長に墨書を寄贈

故野尻氏の

校歌墨書寄贈

故・野尻瀧(きよし)氏(釧中12期)作の校歌墨書贈呈式が6月9日に釧路湖陵高校で行われました。野尻氏は1929(昭和4)年に釧路中学校を卒業。釧路市議、釧路市文化団体連絡協議会会長などを務めました。書家だった野尻氏はペンネームを湖陵としていたほど、母校への思い入れが強かったそうです。この日は、書家の石原行雄氏(釧中23期)が同校の田川芳紀校長に墨書を手渡ししました。

「強い気持ちを持って」

記念講演会で川原氏

6月26日には同校で記念講演会が行われました。講師は、医師の川原尚行さんで、テーマは「意志あるところに道拓けるか? スーダン・東日本大震災での活動」。全日制、定時制の生徒、PTAや卒業生など約1000人が詰めかけました。

川原さんは、福岡県北九州市生まれで、九州大学医学部を卒業し、外務省の医系事務官としてタンザニアとスーダンの日本大使館に勤務していました。翌年、北九州市でNPO法人ロシナンテスを

立ち上げ、スーダンで医療や教育支援、東日本大震災の被災地で復興支援などの活動をしています。

東日本大震災発生直後、2日かけて宮城県名取市に入って医療活動を始めた川原さんは、スタッフが足りずに高校時代の後輩に声をかけたこと、診療の合間にがれきを撤去したことなどを話し、「被災者とともに話し合っ、活動方針を決めました。これはスーダンでの経験が生きました」と語りかけました。また、大学時代にタンザニアを訪れ、その後の活動に大

きな影響を与えたことや経済制裁の続くスーダンで医療活動をするために外務省を辞したことなどを説明し、「組織を辞めて、肩書をたよりにしていた自分に気がついた。故郷では肩書が必要なく、温かさを感じた」などと将来に向けた強い気持ちと故郷への思いの大切さについて述べていました。

このあと、生徒から矢継ぎ早に質問が飛び、川原さんは「これまでの講演の中で、最も活発でした」と喜んでいました。

(写真は工藤写真館提供)



「強い気持ちを持って」と川原さん



講演終了後、生徒たちから多くの質問が寄せられました

祝賀ムード高める提灯も 湖陵祭の行灯行列

湖陵祭が7月13日から3日間の日程で練り広げられました。今年は、記念の年ということもあり、13日に行われた行灯行列には、実行委員会が法被と提灯を用意し、約50人の卒業生が生徒たちと一緒に鉦路市中心部を練り歩きました。

当日は午後6時30分に学校をスタート、道教育大学鉦路校前、城山十字路、久寿里橋、そして北大通を行進しました。生徒たちは、工夫を凝らした行灯を担ぎながら息のあったかけ声を発しながら沿道の見物客に若さアピールしていました。一方、提灯を持った卒業生

は、学生時代を思い出しながら1時間30分あたり、湖陵高校100周年、定時制90周年をお祝いしていました。



北大通を練り歩く行灯



卒業生による提灯行列

キャッチフレーズ・シンボルマーク決定



正門横に掲げられた横断幕



定時制のシンボルマーク



全日制のシンボルマーク

定時 全日
 輝き続ける我らが湖陵
 明日の光をつかめ!!

釧路湖陵高校開校100年・定時制90年を迎え、生徒たちがキャッチフレーズとシンボルマークが完成しました。いずれも昨年度に生徒たちから応募してもらった作品です。

キャッチフレーズは、全日制が「輝き続ける我らが湖陵」、定時制が「明日の光をつかめ!!」です。

全日制は武市祥典君（応募当時2年5組）が考えました。いつまでも、どんな立場になっても湖陵生として輝き続けることを期待したのでしよう。定時制は濱津春奈さん（同2年A組）が考えました。「明日のよいところを見てほしい」と、生徒みんなが明るい光になることを願っています。

シンボルマークは、全日制が菅原あゆみさん（同2年4組）と高橋環さん（同1年1組）がデザインしました。校歌の開始は「日出づる・・・」で、湖陵は湖のほとりにあることから、このようなデザインになりました。また、校章にもなっている「クマザサ」で

囲みました。一方、定時制は濱頭千夏さん（同2年A組）がつくりました。中央の「90」を中心に、鳥が羽ばたくイメージと風に乗って階段を上がる、つまりステップアップを願っています。今後、キャッチフレーズやシンボルマークは、記念事業などで使っていますので、ぜひご覧ください。

星 匠（湖陵30期）

大型スクリーンと プロジェクト学校へ

実行委員会では、学校へ大型スクリーンとプロジェクトを寄贈します。いずれも、体育館で使用するもので、全生徒が集まる講演会などで、威力を発揮するでしょう。

電動大型スクリーンは、300インチ（縦約4.5m、横約6.5m）で、上方に巻き上げるタイプです。一方、プロジェクトは、52001m（ルーメン）というとても明るい光源だそうで、しかも、コントラスト比も2000対1ということなので、とても高画質で観やすくなっています。

すでに、設置は終了していますが、9月29日の式典で、贈呈式が行われる予定です。

各地の湖陵会

東京湖陵会

東京湖陵会（正札喜久雄会長・湖陵21期）は6月16日に、東京都内の日本青年館で開かれました。会員のほか、釧路からは釧路湖陵高校の田川芳紀校長、釧路湖陵同窓会から栗林延次会長（湖陵17期）、青木一晃副会長（湖陵27期）、釧路湖陵100周年・定時制90周年記念事業実行委員会から葭本正美会長（湖陵24期）、さらに札幌湖陵会から伊藤拓磨会長（湖陵21



にぎやかに繰り広げられた東京湖陵会

期）、関西湖陵会から小川清至副会長（湖陵17期）も出席しました。亡くなった同窓生に黙祷をささげた後、校歌を全員で斉唱、続いて正札会長があいさつをされました。このあと、議事が審議され、平成24年度予算案などを話し合

い、承認されました。懇親会では、学生時代の思い出や釧路の話、そして抽選会では大いに盛り上がりしました。

なお、在京釧中湖陵健老会から同実行委員会へ20万円の寄付があり、葭本実行委員長に手渡されました。星 匠（湖陵30期）



健老会から実行委員会に寄付



ロイトンで開かれた札幌湖陵会

札幌湖陵会

札幌湖陵会（伊藤拓磨会長・湖陵21期）は、7月7日に札幌市内のホテルロイトン札幌で開かれました。釧路湖陵高校の田川芳紀校長、釧路湖陵同窓会から島本幸一幹事長（湖陵19期）や記念事業実行委員会の葭本正美実行委員長（湖陵24期）、東京湖陵会から正札喜久雄会長（湖陵21期）、関西湖陵会から小川清至副会長（湖陵17期）、また、元校長の数馬田敏さん（湖陵17期）も駆けつけました。物故者への黙祷に続いて、校歌を斉唱、伊藤会長が「100周年を盛り上げよう」とあいさつ、田

川校長は今の湖陵高校を報告、島本幹事長は「9月29日の祝賀会には参加を」と呼びかけました。このあと平成23年度の会計が報告され、承認されました。

懇親会の余興では、一関庶路さん（湖陵11期）の指導で、「どじょうすい」「12337」など当時の応援団が再現されました。一関さんによると、同期の古川万洋さんが開発したそうです。337拍子のリズムに乗って、どじょうすきを披露、会場から大きな拍手を浴びていました。一関さんは「これからも続けてほしいですね」と話していました。星 匠（湖陵30期）

関西湖陵会

第5回関西湖陵会（西田暉至会長・湖陵7期）は4月21日に大阪弥生会館で行われました。会員のほか、釧路湖陵同窓会から栗林延次会長（湖陵17期）、釧路湖陵100周年・定時制90周年記念事業実行委員会から事務局の鈴木路子さん（湖陵32期）、東京湖陵会から正札喜久雄会長（湖陵21期）、札幌湖陵会から伊藤拓磨会長（湖

陵21期）も参加、総勢23名が参加しました。

校歌斉唱に続き、西田会長があいさつ、続いて釧路湖陵同窓会から栗林延次会長（湖陵17期）が祝辞を述べました。

開校100周年と同会発足5周年を記念して会旗をつくり、総会に合わせて披露されました。同会によると、スクールカラーの「真紅」を忠実に再現したとのこと。

星 匠（湖陵30期）



会旗のもとに集まった参加したみなさん

苫小牧湖陵会

苫小牧湖陵会（川部谷豊会長・湖陵11期）が7月27日、苫小牧市内のグランドホテル王子で開かれた。同湖陵会は、1987（昭和62）年、苫小牧市で開かれた出身の高校、大学の応援歌などを歌う「ああ青春謳歌祭」に参加したのをきっかけに、翌1988（同63）年に発足しました。以来、新年会、夏の湖陵会、ゴルフ大会などを開催して親睦を深めていました。現在会員は、32人です。

この日は、釧中24期の越村佳春さん、同26期の風間隆三さんをは

じめ、会員12人が参加した。まず川部谷会長が「社会に出てから母校の意義を考えたとき、湖陵高校を卒業したことに誇りを持って

います。今年は開校から100年という節目の年。大いに懇親を深めてください」とあいさつ、続いてくまざさ編集委員の星匠から100周年記念事業や釧路について話をしました。

懇親会は、越村さんの乾杯の音頭ではじまり、高校時代の話題に花が咲いていました。最後には、鈴木建夫事務局長の音頭で校歌を斉唱し、母校への思いを歌に込め、ふささとを懐かしんでいました。 星匠（湖陵30期）



昭和40年代の出世坂 増子正樹（湖陵20期）作



苫小牧湖陵会の参加者のみなさん

釧路市 職員湖陵会

4月20日、アクアホールにて第41回釧路市職員湖陵会（川上三郎会長・湖陵21期）を開催しました。当日は来賓として蝦名大也釧路市長（湖陵29期）、釧路湖陵同窓会の曾宇恭久副会長（湖陵21期）のご出席のもと、約100名の会員が参加して、いつものようににぎやかに、楽しいひとときを過ごしました。

同湖陵会は、昭和47年に設立、当時は組合の分裂など、

市政発展にとって必ずしも良い状況下にはありませんでした。そのような中、学び舎を同じくしたもの同士、「母校の発展に協力することお互いの親睦を図る」ことを目的に、有志を募り設立しました。現在、会員は300名を超えました。

設立経過からも会員同士は親睦を深めることを第一とし、ただただそれのみで40年間運営してまいりました。もちろん母校への発展には必要の都度、ご協力もしてまいりました。

これからも設立目的を大切に守り、開校100周年記念に向けて、肩の力を抜いて取り組んでまいります。本来なら総会の紹介ですので、写真の一枚もあってわかりたいと思います。会員同士の親睦を深めるのが第一で、40年間一枚の写真もありません。記憶より記録が大事な場合もあります。来年度に向けての課題といたします。こんな会が、釧路市職員湖陵会です。

川上 三郎（湖陵21期）

現在の出世坂



同窓生の皆さまいかがお過ごしですか。
「くまざさ」61号発刊に当たり、昨年からの学校の様子を簡単に紹介します。

8月

・統一学校説明会

本校体育館を会場にして、湖陵高校が参加を要請した道内外約70の大学短大などが参加し、行われました。各大学のブースに積極的に足を運び熱心に質問する生徒の姿が見られました。一つの高校が主催して、その高校が求める大学に参加してもらう、このような説明会が定着している例は全道でも数少ないそうです。昨年度は第9回目で、今年も8月末に第10回が予定されており、この行事も湖陵の伝統行事となりました。

10月

・新人戦・高文連

多くの運動部が新人戦の地区大会を勝ち抜き全道大会に進出しています。また多くの文化部も高文連の全道大会に進んでいます。その中で、空手道部の我妻君（当時1年）は高体連新人戦全道大会の個人「形」の部において3位と健闘し、3月に岡山県で開催された

全国高等学校空手道選抜大会に出場しました。

・見学旅行

2学年の7クラスを4クラスと3クラスの2班に分け、一日ずらして4泊5日の日程で、京都・奈良・東京方面へ行ってきました。例年使用している航空会社が、昨年からは4クラス（160名）を一度に輸送できる飛行機の機材練りはできないということで、急遽航空会社を変更して出発しました。そのため、見学旅行の日程も行事計画から変更せざるを得ませんでした。

1月

・センター試験

今年度は208名（生徒の86パーセント）が受験しました。試験当日は受験生徒の激励のため、朝早くから極寒の中、会場の釧路公立大学に立つ多くの先生方の姿が見られました。

3月

・第64回卒業式

241名の生徒が湖陵の誇りと夢を胸に、学窓を巣立ってゆきました。

・高校入試

理科1問口、普通科5問口の計6問口の募集です。

・大学合格発表

101名の現役生が国公立大に合格しました。超難関大である東

京大学に2名、京都大学には1名が現役合格しています。浪人生も各1名ずつ合格していますから、今年の湖陵は東大3名、京大2名の合格ということになります。また、私大においても多くの現役生が難関私大に合格しています。

7名の教職員が異動・退職しました。湖陵高校のために力を尽くしていただき、どうもありがとうございました。

・教職員異動

7名の教職員が異動・退職しました。湖陵高校のために力を尽くしていただき、どうもありがとうございました。

4月

・教職員異動

8名の新任教職員を迎えました。

・平成24年度入学式

241名の新入生が夢と希望を胸に入學しました。

・宿泊研修（1年生、川湯温泉御園ホテル）

PTA総会と授業公開・進路講演会・学級懇談を併せ、休日に行われております。また、夜には全

・湖陵の日（4月28日）

PTA総会と授業公開・進路講演会・学級懇談を併せ、休日に行われております。また、夜には全

・教育実習（9名の卒業生を迎えました。）

なんと、14ある運動部（高野連の野球部と冬に大会のあるアイスホッケー部は除く）すべてが全道

・高体連釧根支部予選

なんと、14ある運動部（高野連の野球部と冬に大会のあるアイスホッケー部は除く）すべてが全道

大会に進出しています。まさに文武両道を実践する素晴らしい結果だと思えます。

6月

・創立100周年記念プロンズ像除幕式

創立100周年を記念して、記念事業実行委員会が彫刻家米坂ヒデノリ氏に制作を依頼していた「コタンコロカムイ」（シマフクロウ、村の守り神の意味）の像が完成し寄贈を受け、中庭に設置された。その除幕式を行いました。一連の創立100周年記念行事の最初のものになります。

・高体連全道大会

全道大会においては各クラブともよく健闘しました。あと1勝で全国という惜しい部もありました。陸上部の福田さん（3年）が女子砲丸投げで、昨年に続き2年連続の全国進出を決め、7月29日から新潟市で始まるインターハイ陸上競技大会に出場します。

・創立100周年記念講演

創立100周年記念行事の第二弾は記念講演です。「意思あるところに道拓けるか？ スーダン・東日本大震災での活動」と題して、NPO法人「ロシナンテス」を設立しスーダンにおいて医療を中心に活動している、川原尚行医師の講演会を本校体育館で行いました。内容は、大変感動的なものであ

り、これからの湖陵生が目指すべき姿が、すべて示されていました。講演終了後の熱心な数多くの質問が印象的でした。

7月

・高校野球全校応援

高校野球選手権北海道大会の釧根地区大会において、野球部がブロック決勝に勝ち進んだため全校応援を行いました。対戦相手は明輝高校で、息詰まる熱戦の結果1-0で勝利しました。9年ぶり23回目の北海道大会進出です。北海道大会は帯広の森野球場で行われ、大会第1試合で滝川工業高校と対戦し惜しくも敗れました。同窓生の皆さんの応援に感謝いたします。

以上簡単な内容となりましたが、ご容赦下さい。また、今後とも母校のため、後輩のためによりしくお願いします。

澁谷 倫之（湖陵26期）

当番期だより

創立100周年記念となる同窓会の幹事を務めさせていただくことができ、大変光栄に思っております。また、100周年記念事業が催されることや、同窓会の幹事を務めさせていただくことで同期の交流が活発になり、絆が深まる契機となりました。ことに感謝いたしております。

1988年に卒業いたしました我々40期は、4年制大学へ進学した者が就職活動中の1991年にバブル経済が破綻し、以降、就職氷河期、空白の10年といわれる不景気、ようやく上向いてきたかと思っていた頃のリーマンショック等をリアルタイムで経験してまいりました。

そして、昨年の東日本大震災と現在も続く復興および原子力発電所問題等を抱え、まさに政治も経済も閉塞感が漂う現在の日本において、中心となつて動かねばならない、それぞれの立場で様々なストレスの多い年代となりました。

精神科医の故・斉藤茂太さんの著書に以下のような「すすめ」

がありました。

「行き詰つたら連帯感の中に自分を戻す」「できれば学生時代の友人など仕事に関係のない仲間との連帯感の中に自分を戻す」。

まさに、同期の交流が活発になりましたことは、我々にとつて新たに大きな財産を得たことのように感じます。私自身、卒業以来24年、釧路を離れたまま実家もなく、同期とも疎遠になっておりましたので、本当に良い機会をいただいたと思っております。

私事になりますが、創立100周年ということもあり、今年の6月に初めて東京湖陵会総会へ同期を誘い出席いたしました。そこでも、大先輩方の強い連帯感を感じ、湖陵の良さを再確認する機会となりました。

我々同窓生の本当の財産は、学歴ではなく、この連帯感ではないでしょうか。大先輩方の中にあつて誠に僭越ではございますが、湖陵が続く限り、この連帯感が後輩の皆さんに引き継がれていくことを願って止みません。

綿貫 大陸(湖陵40期)

訃報・男澤先生逝く

7月18日、男澤哲夫先生が札幌市内で亡くなられました。97歳でした。男澤先生は、1941(昭和16)年、当時の釧路中学校で教職生活をスタートしました。この年は、3年生以上は20日間の勤労作業が決定したり、釧路地区中等学校報国団結式が行われるなど、戦時色がいつそう強くなりました。

学科は、現代国語や古典、書道などで、部活は剣道を担当してました。始業のベルが鳴ると、しばらくしてやってきます。そして、いきなり廊下側の窓を開けて教室に入ってきました。授業の内容は忘れてしまいました(男澤先生、すいません)、怒ることもなく、とっても物静かな授業だったと記憶しています。

退職は1985(昭和60)年ですから44年間の長きにわたつて教鞭をとつてきました。これから、男澤先生のようにずっと湖陵高校で教える先生は出てこないと思います。また、多くの同窓生の方が、釧中、湖陵という男澤先生を思い出すのではないのでしょうか。

ご冥福をお祈り申し上げます。
星 匠(湖陵30期)



体育祭で活躍する男澤先生(80周年記念誌より)

編集後記

今回も、何とか夏の同窓会総会にお届けするべく「くまざさ」の取材活動が終わりました。湖陵高校が栄えある創立百周年を迎える今年、私たち湖陵30期生にとつて、3度目となる同窓会総会の幹事年、いわゆる「最後のお務め」に当たります。加えて、私や編集長の星君は「物書き」という職業柄、百周年記念誌の編集にも携わらせていただいているため、「くまざさ」とダブルでの原稿集めや校正作業、印刷所とのやりとりなど、いつもの年よりかなりハードな(充実した?)夏を送ることができました。また、7月の湖陵祭では、35年ぶりに行灯行列に参加(提灯を持つて歩いただけでしたが...)することができ、若かりし頃を思い出して感激を新たにすることもできました。この後も同窓会総会、9月の記念式典と祝賀会、さらにはそれらの模様を掲載した



(前列左から)川端紀一、星匠、増子正樹(後列左から)佐藤文昭、田巻恒利、渋谷倫之、須貝喜治、西村貞広

百周年記念誌の発行(12月の予定です)まで、まだまだ気を抜くことのできない緊張の日々が続きませんが、「世紀の大事業」に携わることのできた誇りと喜びを糧に、同窓生の皆様に喜んでいただくことのできる記念祝賀会の開催、百周年記念誌の発行を目指しまして、微力ながらもお手伝いをさせていただきます。一人でも多くの皆様の祝賀会へのご臨席、記念誌のご購入をお願い申し上げます。

西村 貞広(湖陵30期)

釧路湖陵高校

〒085-0814
釧路市緑ヶ岡3丁目1番
TEL(0154)43-3131
ホームページ
<http://kushiro-koryu.jp/infoseek.co.jp/>

くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 栗林延次(湖陵17期)
- 同窓会幹事長 島本幸一(湖陵19期)
- 同窓会会計長 佐藤文昭(湖陵22期)
- 編集委員長 星 匠(湖陵30期)
- 編集委員 川端紀一(湖陵11期)
- 編集委員 増子正樹(湖陵20期)
- 編集委員 渋谷倫之(湖陵26期)
- 編集委員 西村貞広(湖陵30期)
- 編集委員 須貝喜治(湖陵49期)
- 編集事務局長 田巻恒利(湖陵18期)

くまざさ編集委員会

〒085-0014
釧路市末広町2丁目4番地
栄屋旅館内
TEL0154 (23) 0241
手動切替FAX
0154 (23) 0242